

シンポジウム

堂本印象

『いの字絵本

恋の都大阪の巻』

とは何か

青年画家の心をとらえた
大阪のまちと女性

2026年2月1日①

13:30 - 15:30 (開場 13:00)

会場 | 住まい情報センタービル3階ホール

大阪市北区天神橋 6丁目 4-20 [大阪くらしの今昔館 同ビル内]

定員 | 150名 [無料 / 要申込] *申込については裏面

主催 | 堂本印象と大阪研究会、京都府立堂本印象美術館、京都新聞

共催 | 大阪市立住まいのミュージアム (大阪くらしの今昔館)

助成 | 公益財団法人 芳泉文化財団

登壇者

橋爪 節也 (大阪大学名誉教授)

高井 多佳子 (高島屋史料館 研究員)

杉本 喜代一 (杉本梁江堂 『いの字絵本』発行元)

正木 利和 (美術ジャーナリスト [元産経新聞文化部編集委員])

松尾 敦子 (京都府立堂本印象美術館 主任学芸員)

進行 | 林屋 祐子 (京都新聞社 文化部)

いの字
絵本とは

明治末～大正初期にかけて大阪を拠点に活動していた日本画家・堂本印象が大正元年に出版した挿絵付き短歌詩集。20歳の印象が大阪ならではの恋と人情をテーマにしながら、若者らしい感覚で表現しています。大阪の女性を描いた挿絵は大大阪時代の暮らしを伝える貴重な資料でもあります。

『いの字絵本』「連想」(部分)



青年画家が描いた大阪の恋模様

堂本印象（1891―1975）は京都画壇の大家として知られる日本画家ですが、明治末から大正初期にかけ大阪を拠点に活動し、そこでの体験から20歳の大正元年（1912）、『いの字絵本恋の都大阪の巻』を杉本梁江堂から刊行します。本書は女性を題材にしたコマ絵と呼ばれる挿絵と短歌・詩からなる和装本で、近松門左衛門の「心中物」に象徴される恋と人情をテーマに、若者らしい感覚で活気ある大阪の都市文化を当世風俗として表現し、50図以上に及ぶ挿絵は、昭和初期の「大大阪時代」へと向かう明治末大正の暮らしや流行を洒脱なタッチで伝えています。

この度、『いの字絵本』の復刊と復刻を記念し、シンポジウムを開催します。『いの字絵本』の舞台大阪のまちと女性たちに焦点を当て、個々の挿絵を検証することで、生涯にわたって変貌し、類い希な才能を発揮した堂本印象の、画家としての原点を新しい視点で掘り下げます。



『いの字絵本』



③



②



①

『いの字絵本』

①「がってんくび」、②「京阪電車の夜」、③「買物」

青春期の大阪の姿が、
こうした卓抜した画筆で
後世の我々に残されたのは、
ほんとうに幸運だった。

肥田晴三「大阪の名著発掘」、『なにわ町人学者伝』昭和58年

申込について

美術館サイト



＊ 申込方法の詳細は京都府立
堂本印象美術館サイトで後日発表

＊ 2025年12月12日（金）10:00～受付開始（予定）

◆会場アクセス

- ・大阪メトロ谷町線・堺筋線、阪急電鉄
「天神橋筋六丁目」駅下車
③号出口より連絡
- ・JR大阪環状線「天満」駅より
北へ650m

◆シンポジウムに 関する問合せ

075・463・0007
京都府立堂本印象美術館



『いの字絵本』（大正元年）表紙



『いの字絵本』
「バルコニーのつれづれ」（部分）

『いの字絵本』（復刻）ほか
印象と大阪に関する
関連展示も！

会場 | 大阪くらしの今昔館8階ロビー
期間 | 2026年1月4日（土）～2月1日（土）